

(1) 事業名称等

【事業名称】「ヘリテージマネージャー・ホームドクター活動」

～阪神北地区の国登録有形文化財建造物を事例として～

【事業団体】特定非営利活動法人 阪神文化財建造物研究会

【事業経費】1,263,059 円

(2) 事業の目的

◆ 平成 27 年度には、「ヘリテージマネージャー・ホームドクター活動～阪神北地区の国登録有形文化財建造物を事例として～」として、阪神北地区（伊丹市・宝塚市・川西市・三田市・猪名川町）の登録文化財 11 件（56 棟）にも範囲を広げ、阪神地区全体を対象に以下の取り組みを行う。

1. 勉強会やシンポジウムを通じた阪神地区全体における所有者、地域住民、兵庫県ヘリテージマネージャーの交流とネットワークづくり
2. 阪神北地区の登録有形文化財を対象とした点検カルテの試験的使用及びアンケート調査、ヒアリング調査による所有者の意向調査
3. 「文化財ホームドクター活動マニュアル（仮称）」の作成

◆ 都市型の特性を見せる阪神南地区の登録有形文化財に対し、阪神北地区は、農村型、郊外型の特徴を見せる。また、阪神地区は、歴史的建造物が集積するというよりは、散在しており、ホームドクター活動を定着させながら、意図的に文化財所有者のネットワークを構築する必要性が高い。このような地区の全体を見ながら作成する当会の「文化財ホームドクター活動マニュアル（仮称）」は、同様な環境に置かれる全国の中小都市にとって、参考になるものと思われる。

阪神地区に文化財ホームドクター活動を定着させることを目標とし、これに到達するために必要な取り組みとして、以下 3 つを行うことを目的とする。

1. 勉強会やシンポジウムを通じた阪神地区全体における所有者、地域住民、兵庫県ヘリテージマネージャーの交流とネットワークづくり
2. 阪神北地区の登録有形文化財を対象とした点検カルテの試験的使用及びアンケート調査、ヒアリング調査による所有者の意向調査
3. 「ホームドクター活動マニュアル（仮称）」の作成

(3) 事業活動の内容

1. 検討委員会の開催
2. 勉強会やシンポジウムを通じた阪神地区全体における所有者、地域住民、兵庫県ヘリテージマネージャーの交流とネットワークづくり
3. 阪神北地区及び阪神南地区の登録有形文化財を対象とした点検カルテの試験的使用及びアンケート調査、ヒアリング調査による所有者の意向調査
4. 「文化財ホームドクター活動マニュアル（仮称）」の作成

(検討会及び作業)

8 月 20 日（木） 19:00～20:30 事業検討会及び作業 西宮市民交流センター

- ・事業内容の説明、検討を行う
- ・事業スケジュール検討（10 月 17 日勉強会、12 月 5 日シンポジウム開催等）
- ・受持ち物件の割当、グループ設定
- ・シンポジウムのチラシ案提出大塚氏、検討

9月13日(日) 13:30~15:00 検討会及び作業

- ・カルテ調査の確認、問題点等

10月22日(木) 19:00~20:45 検討会及び作業 西宮市民交流センター

- ・12月5日シンポジュームの検討
- ・チラシ案・数、チラシ配布の検討
- ・シンポジューム直前ミーティングの検討
- ・シンポジュームタイムテーブルの検討
- ・12月6日(日)文化庁委員の視察検討
 - カルテ調査の報告・調整(A,B,C班のスケジュール検討)
 - 文化財一斉公開の報告
 - マニュアルの報告・検討

11月19日(木) 19:00~22:00 西宮市民交流センター 検討会及び作業

- ・12月5日シンポジュームの細かいスケジュール、役割分担決定
- ・12月6日文化庁委員視察の細かいスケジュール、役割分担決定
- ・シンポジュームのタイムテーブル打合せ
- ・シンポジュームの開催広報(24日記者発表、再度シンポジューム開催PR)
- ・マニュアル作成勉強会を11/28(土)講師 沢田氏、村上氏で行う
- ・マニュアルの構成案について意見交換
- ・カルテ調査の進捗確認

12月6日(日) 9:00~12:00 委員現地視察(渡邊先生他2名)

小林聖心女学院案内、検討会

12月17日(木) 検討会及び作業 19:00~21:00 若竹会館

- ・シンポジューム反省
- ・マニュアルの作業確認(Q&Aについて、今後の作業)
- ・カルテ調査の進捗確認
- ・田辺家住宅の耐震診断要請について

1月21日(木) 検討会及び作業 19:00~21:00 西宮市民交流センター

- ・マニュアルの細かい表現等、ページ数、文字の大きさ、部数、その他
- ・登録有形文化財伴の会への準備→カルテを渡す時に参加呼びかけ。

2月18日(木) 18:30~21:00 検討会 西宮市民交流センター

- ・マニュアル作成スケジュール(28日勉強会で決定し、報告協議会で出席者代表に仮綴じ製本を渡す)



委員現地視察、案内



検討及び作業

(勉強会及び作業)

9月13日(日) 15:00~17:00 吉川商店会議室

アドバイザー 沢田 伸氏

- ・マニュアル検討会、全国へリマネの推移についてP.Pで沢田氏より説明

10月17日(土) 13:00~14:30 西宮市民交流センター(説明・意見交換)

橋本・佐藤さん(山本清記念財団スタッフ)

- ・山本清記念財団の文化教室事業の勉強、質疑

14:30~17:00 西宮市民交流センター(講義・意見交換)

- ・篠山(城北・城下町・日置・福住他)朝来、養父、豊岡、空き家活用組 講師・金野氏

11月7日(土) 勉強会 西宮市郷土資料館元館長 西川氏講師

- ・建造物の保存と活用について(保存と現状・特殊性・2つの事業・HDの必要性・活用)



勉強会及び作業

11月28日(土) 勉強会及び作業 13:00～16:30 吉川商店会議室 沢田氏、村上参事
・マニュアルの構成について検討・作業実施

(行政説明会・シンポジウム)

8月7日(金) 16:00～17:45 関係行政連絡・検討会開催(伊丹市、
宝塚市、川西市、三田市、猪名川町) 伊丹アイホール

- ・事業の説明及び協力依頼
- ・昨年に事例にて依頼書発行のお願いする。
- ・各市町問題点計上し検討



行政への連絡・検討会

10月29日(木) 16:00～18:00 全国ヘリテージマネージャー協議会(金沢)出席
・シンポジウム開催のPR及び関係者の打合せ

11月2, 3, 4日 シンポジウムチラシ配布

11月24日(火) シンポジウムの記者発表(尼崎市役所2階記者室)

12月5日(土) 11:00～12:00 シンポジウム直前打合せ
13:30～16:30 シンポジウム
17:00～19:00 懇親会



シンポジウム(基調講演)



シンポジウム(パネルディスカッション)

(4) 事業の成果

当初、阪神南地区は都市型の登録有形文化財が多く、阪神北地区(伊丹市、川西市、宝塚市、三田市、猪名川町)は近郊型又は農村型の登録有形文化財が多くみられたことから、阪神北地区で活動を実施すれば、其々の類型が判明しマニュアルを作成してガイドブックも可能に思われた。本年度の活動の結果、都市型、農村型の区分なくマニュアルを作成することが妥当と判断され、方針を再検討したことでマニュアルを作成した。

阪神北地区1回目のカルテ調査

阪神北地区のカルテ調査を4市・1町(宝塚市・川西市・伊丹市・三田市・猪名川町)の行政の協力を得て作業を終えた。(三田市は所有者より、ホームドクター的な存在者が在籍の為不要の回答)

- 1) ホームドクターの基本的な活動が理解できた。
- 2) 行政との関係や関わりのあり方が分かった。
- 3) アンケートやカルテの問題点も理解でき、所有者の思いが判明した。

(アンケート「文化財を誇りに思う」90%やホームドクター必要・期待 90%)

- 4) 座談会形式のシンポジウムで所有者・関係者の抱える課題が分かった。

- ・登録文化財の補助・助成金の必要性
- ・当文化財の協力者・サポーターが必要である。
- ・お金をかけない活用方法の検討
- ・文化財を教育に取込、若者の理解度レベルアップを計る

阪神南地区 2 回目のカルテ調査

阪神南地区の 2 回目訪問は所有者と少し懇意になり、色々の注文が現れている事は特筆すべき事の様思う、また逆にカルテ訪問者も馴染になると依頼や提案が発生した。

・所有者、行政等関連、訪問者（ホームドクター）の依頼

- 1) 改修工事の相談、大きな古民家で小部屋を含め、小屋裏の有効活用の検討
→小西家住宅
- 2) 耐震診断の説明→田近家受託
- 3) 一般公開立会の支援・協力（行政と所有者よりのホームドクターとしてバックアップ要請）
→西宮市、山本清記念財団、小林聖心女学院改修
- 4) 文化財パトロール的な存在要請→阪文建
- 5) 小林聖心女学院本科改修基本計画検討会（創立 100 周年記念事業）
→訪問時小林聖心女学院の依頼
- 6) 2 階の戸袋の木部の腐蝕で落下の恐れあり、老夫婦住まいの為遠方より御子息の帰宅お願いして打合せ修理改善の承諾を得る。→訪問者（ホームドクター）
- 7) 大きな旧古民家を文化教室として貸し出されているが、住宅時代に 2 つの階段を 1 つに改修しているので、元に戻し 2 方向避難にする依頼→訪問者（ホームドクター）

（5）事業実施後の課題

- ① 所有者から相談を受けた後の対応の幅を広げるため、地域の関係分野の専門家、専門団体とのネットワークを広げる必要がある。
- ② ホームドクター活動を持続させるための仕組みを充実させる必要がある。
- ③ 所有者の会の設立準備や継続の仕組みが必要である。
- ④ ホームドクター活動を如何に広げて継続するか仕組みが必要である。
- ⑤ 南地区 18 戸、北地区 11 戸でマニュアル化は統計数不足であるため、登録文化財を増やしつつマニュアルを充実させていく必要がある。
- ⑥ 登録有形文化財の候補（所有者の登記未完で未登録等）の対応
- ⑦ 修理活用の具体化を計る（設計・施工・それらの助言）
- ⑧ 広域（兵庫県全域）な活動の進め方の検討

（6）今後の展開

マニュアルは作成したものの、地域活性に繋げる段階には至っておらず、引き続き今後の地域サポーター育成に繋ぎながらホームドクター活動を推進したい。

（7）その他

来年度以降も様々な助成事業を活用しながら、地域サポーター育成の中でホームドクター活動推進を計りたい。